

イソマツ

Limonium wrightii var. *arbusculum*

イソマツ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。高さ 15 ～ 20cm。幹は黒褐色で短い。葉は枝先に集中する。葉身はへら型で全縁、先端は円く、長さ 2 ～ 4cm、無毛。葉脈は主脈以外は不明瞭。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、九州、南西諸島；台湾

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの岩の隙間に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	3	1	3	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

E + ACD



（執筆者：加藤英寿・大場秀章）

ムニンノキ

Planchonella boninensis

アカテツ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小高木。樹皮は黒褐色、葉は互生し枝先に集まる。葉身は楕円形で鈍頭、濃緑色で光沢があり、長さ 7 ～ 20cm。雌雄異株。果実は卵形で長さ約 5cm、黄色に熟する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地林内のあまり乾燥していない立地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

結実率が低く、枝や果実をネズミ類が食べるため、ネズミ類による食害に注意することに加え、ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989b；豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
20	4	1	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	22	0	0

判定基準

ACD



（執筆者：加藤英寿・大場秀章）

コバノアカテツ

Planchonella obovata var. *dubia*

アカテツ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。樹皮は黒褐色。葉は楕円形から長楕円形で全縁、新葉は赤褐色の毛に覆われる。基本変種のアカテツとの間で連続的に変異し、区別は難しい場合もある。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島

【小笠原諸島における生育環境】

乾燥した岩礫地や風衝地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	0	1	7	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	9	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンクロキ

Symplocos boninensis

ハイノキ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小高木。枝は緑色で稜があり、無毛。葉は互生し、革質で全縁、長さ 5 ～ 6cm、幅 2.5 ～ 3.5cm。花は 10 月ごろ葉柄につき淡黄緑色。果実は翌年の 7 月ごろ黄褐色に熟し、楕円形で長さ 15 ～ 17mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

結実はしているが、次世代の更新がほとんどない。外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ウチダシクロキ, オガサワラクロキ

Symplocos kawakamii

ハイノキ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。若枝は黄緑色で稜がある。葉は互生し枝先に集まり、厚く全縁で、葉脈は明瞭で凹み、縁は裏側に巻き込む。花は11月ごろ葉腋につき、乳白色。果実は翌年の秋に暗紫色に熟し、広楕円形で長さ10～15mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

尾根や岩場などの乾燥した矮性型の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
5	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	3	0	0	1

判定基準

ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

チチジマクロキ

Symplocos pergracilis

ハイノキ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。枝は暗紫色で無毛。葉は倒卵状楕円形で長さ3～5cm、幅1.5～2.5cm。11～12月に葉腋に白い花がつく。果実は翌年の秋に黒く熟し、長楕円形で長さ約15mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面や緩斜面の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラモクレイシ

Geniostoma glabrum

マチン科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。樹皮は灰褐色で若枝は緑色。全体が無毛。葉は対生し、葉身は厚く楕円形で長さ7～15cm。幅4～6cm、葉柄は長さ7～20mm。葉腋に2出集散花序を伸ばし、淡緑色の小さい花を多数咲かせる。蒴果は緑色で楕円形、長さ13～18mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ネズミによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
9	4	0	2	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	13	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ホソバヤロード ※備考 (p.300)

Ochrosia hexandra

キョウチクトウ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。樹皮は赤褐色で全体が無毛。葉は3～5枚が輪生し、葉身は長楕円形で全縁、長さ7～15cm、幅1.5～2cm、葉柄は長さ1.5～2cm。5～6月に白い花を咲かせる。果実は2個の分果が対生し、縦に稜線があり、8～9月に黄色くなる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の海岸近くの樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	1	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラクチナシ

Gardenia boninensis

アカネ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。葉は対生し全縁、表面は光沢があり、葉脈はやや凹む。葉身は楕円形で長さ3～10cm、幅1.5～4cm。花は白色で直径4～5cm、果実は楕円形で縦に6本の稜線があり橙色に熟す。本州～南西諸島に分布するクチナシ *G. jasminoides* に似るが、葉や花が小型であることにより区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した山地平坦面や緩斜面に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
9	13	2	5	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	15	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

マルバシマザクラ

Hedyotis hookeri

アカネ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。葉は卵円形でほぼ無柄、基部は円形または浅心形。枝先に集散花序を伸ばし、花柄は短毛が密生、5～6月に淡紫色の花を多数咲かせる。花冠は長さ約1cm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの草地や山地の岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シマザクラに比べると個体数が少ない。草刈りや外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
9	14	5	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	25	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマザクラ ※備考 (p. 300)

Hedyotis leptopetala

アカネ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

常緑低木。葉は楕円形～披針形で長さ3～6cm、幅1.5～2.5mm、葉柄は長さ1～5mm。枝先に集散花序を伸ばし、花柄は無毛、7～10月に淡紫色の花を多数咲かせる。花冠は長さ約1cm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの草地から山地の疎林まで様々な環境に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	16	7	4	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	3	13	3	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

アツバシマザクラ

Hedyotis pachyphylla

アカネ科

小笠原諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑低木。葉は革質、楕円形でほぼ無柄。枝先に集散花序を伸ばし、花柄は無毛、6～9月に淡紫色の花を多数咲かせる。花冠は長さ約4～5mm。蒴果は楕円形で、先端が萼筒の外には出ず、裂開するのが萼筒ごとであることから他種と区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の海岸近くのやや湿った岩場や尾根筋に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンハナガサノキ

Morinda umbellata subsp. *boninensis*

アカネ科

小笠原諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑藤本。葉は対生で、葉身は厚く楕円形、葉柄は長さ4～10mm。雄株と両生株がある。6月ごろに枝先に多数の花が密集した頭状花序をつけ、花序の柄は長さ3～10mm。果実は互いに合着した複合果になり、橙色に熟す。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地の林縁や疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

雄株に比べて、両生株が少ない。外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	4	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマハナガサノキ

Morinda umbellata subsp. *boninensis* var. *hahajimensis*

アカネ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑藤本。托葉が楕円形であることからムニンハナガサノキに似るが、葉はやや薄くて幅が広く、葉柄は長さ10～20mm、花序の柄は細く、長さ7～15mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地の林縁や疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

雄株に比べて、両生株が少ない。外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
5	7	2	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラボチョウジ

Psychotria homalosperma

アカネ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木～高木。葉は対生で枝先に集中し、葉身は倒卵形から楕円形で長さ 6～23cm、幅 2.5～10cm。花は雄しべと雌しべの長さに 2 型がある異型花柱性と考えられている。枝先に花序の枝を伸ばし、6～7 月に筒状の白い花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌が深く、あまり乾燥していない日当たりの良い立地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
7	8	4	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	14	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマギョクシンカ

Tarenna subsessilis

アカネ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。葉は対生し、枝先に集中してつく。葉身は長楕円形で全縁、裏面のみに短毛が散生し、長さ 6～20cm、幅 3～8cm。枝先に集散花序をつけ、4～5 月に多数の小さな白花を咲かせる。果実は球形、径 7mm ほどで、12 月ごろに熟して黒色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

主にあまり乾燥していない自然林に自生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	11	5	7	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
3	0	0	9	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマムラサキ

Callicarpa glabra

クマツヅラ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。葉は対生し、葉身は狭長楕円形で無毛、長さ5～10cm、幅2～5cm、葉柄は長さ2～2.5cm。葉腋に集散花序をつけ、淡紅色の花を密生する。雌雄異株。果実は球形で径3～4mm、熟すと紅紫色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面のやや湿った立地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

結実が少なく、次世代の更新がほとんどない。ノヤギの食害や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	1	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	2	0	0

判定基準

C



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ウラジロコムラサキ

Callicarpa parvifolia

クマツヅラ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。葉身は楕円形から広卵形で厚く、裏面は灰褐色の絨毛が密生し、長さ2～4.5cm、幅1.5～4.0cm、枝先に近い葉腋に集散花序をつけ、淡紅色の花を密生する。果実は球形で熟すと紅紫色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面に見られる風衝地や岩石地の矮性型の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害の影響が非常に大きいため、それに注意するとともに、外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
6	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	2	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマカコソウ ※備考 (p. 301)

Ajuga boninsimae

シソ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈は5～20cmで、茎の基部から走出枝を出す。父島の個体は葉の両面が短毛に覆われるが、母島の個体は裏面脈上を除きほぼ無毛。11～1月に茎の上部の葉腋に薄紫色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

林縁や明るい疎林の湿った場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害に加え、ホナガソウなどの外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Iwatsuki, K. et al., 1993; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	3	1	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	7	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンタツナミソウ ※備考 (p. 301)

Scutellaria longituba

シソ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈15～30cm、茎には稜があり、短い毛が密に生じ、葉は対生する。茎の先に総状花序をつけ、花は白または薄紫色で筒部が非常に長く、長さ4～5cm、3～4月に開花する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面のあまり乾燥しない林内や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982c; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	6	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンホオズキ

Lycianthes boninensis

ナス科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈は 50 ～ 70cm、全体は無毛。葉は楕円形から卵形で全縁。5 ～ 9 月に葉腋に下向きに白い花を咲かせる。液果は球形で赤く熟し、細く 10 裂した萼片が目立つ。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；フィリピン

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982c；豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	3	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	5	0	0

判定基準

ACD



（執筆者：加藤英寿・大場秀章）

アツバクコ

Lycium sandwicense

ナス科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑低木。葉は短枝に束生し、へら形で先端は丸く、多肉質で、長さ 1 ～ 2cm。短枝の先に白い漏斗形の花をつける。液果は球形で熟すと赤くなる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの崖や岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989b；豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	5	1	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	6	1	0

判定基準

E + ACD



（執筆者：加藤英寿・大場秀章）

ムニンハダカホオズキ ※備考 (p. 300)

Tubocapsicum boninense

ナス科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。草丈は 0.5 ～ 1m、全体が無毛である。葉は楕円形で前縁。葉腋に淡黄色の花を下向きに咲かせる。液果は球形で赤く熟し、萼は皿形でほとんど裂けない。

【分布の概要】

小笠原諸島。ムニンホオズキとの誤認が多く、正確な分布は不明。

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハマクワガタ

Veronica javanica

ゴマノハグサ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

二年草。草丈 10 ～ 40cm で、葉は対生し、葉身は三角状卵形で鈍鋸歯があり、長さ 1.5 ～ 4cm、幅 1 ～ 2.5cm。花冠は淡いり色で径 2 ～ 2.5mm。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州 (関東以西)、四国、九州、南西諸島; 東アジアからアフリカ

【小笠原諸島における生育環境】

路傍や空き地などの荒れ地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草刈りや外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982c.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	1	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	1	0

判定基準

ACD



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマウツボ ※備考 (p. 301)

Orobanche boninsimae

ハマウツボ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多肉質の寄生植物。地上部全体が鮮やかな黄色で、草丈 10～15cm。鱗片状で粗い毛に覆われた葉の間から、左右相称の花を咲かせる。オガサワラビロウやモクタチバナなどの根に寄生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内のある程度明るい場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の踏みつけや外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	2	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
3	2	1	2	0	1

判定基準

ACD

トキワガマズミ

Viburnum boninsimense

スイカズラ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。葉は対生で、葉身は厚く光沢があり無毛、卵円形からひし状腎形で長さ 6～15cm。枝先に集散花序を伸ばし、小さな白花を多数つけ、果実は赤熟する。伊豆諸島、本州山口県以西に広く分布する、ハクサンボク *V. japonicum* の変種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面のやや湿った低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新があまり見られない。自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	2	1	0	0	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD

オオハマギキョウ ※備考 (p. 301)

Lobelia boninensis

キキョウ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小高木。発芽後数年かけて成長し、開花・結実した後に枯死する1回繁殖型植物。茎の先から多数の葉が輪生状に密集して生じ、葉は狭倒披針形で縁は裏側に巻き込む。葉の表面は光沢があり、葉脈は凹む。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの草地や崖、岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギやネズミ類の食害や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	5	2	2	0	0	8

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	10	1	3

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヒナギキョウ

Wahlenbergia marginata

キキョウ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。草丈 20～40cm で、茎が多数束生する。葉は互生し、倒披針形で長さ 2～4cm 縁は波状鋸歯がある。枝先に淡青色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

断崖地や岩場から垂れ下がるように生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982c; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラザミ

※備考 (p. 301)

Cirsium boninense

キク科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。地上部は白い綿毛に覆われる。葉は厚く、羽状中裂し、鋸歯の先はとげになる。頭花は白花で上向きに咲く。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの草地や岩の間、疎林の林床などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982c; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	6	2	5	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	6	2

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

トヨシマアザミ

Cirsium toyoshimae

キク科

小笠原諸島

EX

環境省

EX

【形態・生態】

オガサワラアザミに似るが、やや小型でとげも鋭くない。花色は薄い紫色とされている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの疎林内に自生していた記録がある。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

絶滅の要因は不明である。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ユズリハワダン

Crepidiastrum ameristophyllum

キク科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑小低木。枝はあまり分かれず、葉は枝先に集中する。長い葉柄があり、葉身は狭長楕円形で先端はとがり、主脈は赤みを帯びる。枝先の葉腋から総状花序を伸ばし、多数の白い頭花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った疎林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在は母島列島のみから知られるが、過去には父島でも記録がある。自生地の踏みつけや乾燥、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	1	2	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	5	0	2

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

コヘラナレン

Crepidiastrum grandicollum

キク科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。草丈は 10 ～ 20cm、根出葉は楕円形で葉柄があり、花茎上の葉は茎を抱く。頭花は黄色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い疎林や岩場などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物による被圧、自生地の踏みつけに注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982c; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヘラナレン ※備考 (p. 300)

Crepidiastrum linguifolium

キク科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小低木。多くの枝を分け、葉は枝先に集中する。葉柄はなく、葉身は狭楕円形から楕円状倒披針形で、先端は丸い。秋に葉腋から側枝を出し、散房花序を伸ばして白い頭花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い風衝地や岩場などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在は母島列島のみから知られるが、過去には父島でも記録がある。昆虫類による食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	7	3	5	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	13	2	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

モクビャッコウ

Crossostephium chinense

キク科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小低木。多くの枝を分け、茎や葉は灰白色の短毛が密生し、全体に白く見える。葉は互生し、葉身はやや厚く、長楕円状倒卵形。葉腋から総状または円錐状の花序を伸ばし、黄色の頭花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島; 台湾、中国

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの日当たりの良い風衝地や岩場などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

大場秀章, 1982a; 佐竹義輔ら (編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	2	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ワダンノキ

Dendrocacalia crepidifolia

キク科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑小高木。幹は灰白色で多くの裂け目が縦に入る。葉は互生して長い葉柄があり、葉身は倒卵形から楕円形で全縁または低い鈍鋸歯がある。枝先に散房状円錐花序を伸ばし、多数の紅紫色の頭花をつける。雌雄異株。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

標高 300m 以上の雲霧帯の疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	0	3	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ツルワダン

Ixeris longirostra

キク科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

多年草。草丈は 10 ～ 30cm で、地表をつる状の茎が匍匐する。根出葉は線状披針形で先は鈍頭、花茎上の葉は茎を抱き先はとがる。頭花は黄色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの草地や岩の間に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	2	3	4	1	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	3

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

カワツルモ

Ruppia maritima

ヒルムシロ科

小笠原諸島

CR

環境省

NT

【形態・生態】

沈水性の多年草。地下茎が地中を伸びて、節から茎が伸びる。葉身は針状で互生し、長さ6～10cm、幅0.3～0.6mm、葉腋から花茎を伸ばし、その先に花穂をつける。果実は卵球形で黒色。

【分布の概要】

小笠原諸島；世界中に広く分布

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの池など、海水と淡水の混ざるところに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の変化に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；角野康郎，1994。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

E + ACD



（執筆：加藤英寿・大場秀章）

スズフリホンゴウソウ

Sciaphila okabeana

ホンゴウソウ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

一年草。葉緑素を持たない菌根植物である。地上部は赤紫色で、地上茎は長さ10cm以下。花序の下部に雌花、上部に雄花がつく。果実は直径2～3mmの小さな果実が集まって球状をなす。なお、同種については、台湾から記載されたササキソウ *Sciaphila ramosa* と同種とする見解もある。この見解に従えばスズフリホンゴウソウの学名は *Sciaphila ramosa* となる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面の低木林内の陰湿で腐植に富む林床に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の踏みつけや乾燥、外来植物の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	4	2	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	1	0

判定基準

D



（執筆：加藤英寿・大場秀章）

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora

ホンゴウソウ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。葉緑素を持たない菌根植物である。地上部は赤紫色で、果実は直径3～4mmの小さな果実が集まって球状をなす。スズフリホンゴウソウに比べて、茎がやや太く、花序も全体的に大きい。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面の低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の踏みつけや乾燥、外来植物の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	2	1	2	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E + ACD

マツバシバ

※備考 (p.300)

Aristida boninensis

イネ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。草丈は10～15cmで、葉は内側に巻き込み、先は細くとがり、束生してマツ類の葉のように見える。小穂は1花で、芒は長く屈曲する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	6	5	2	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	1

判定基準

E + ACD